

平成21年度 秋セメスター 授業アンケートについて

教務委員会

はじめに

大学におけるFDの実質化が叫ばれるようになって久しい。もともとFDは「学生のニーズ、[教員]自らのニーズ、[学校]組織のニーズに対応するに当たって、その資質の向上、効果の改善に向けて、教員の姿勢あるいは技能・行動、これらのものを変えようとするプロセス」と定義されている。すなわち個人の職業人としての倫理・知識・技術の向上、教育活動や教育内容というような教育課程の向上、そして学部や学校組織の向上という三つの要素が含まれるのである。日本の大学におけるFDは、大学設置基準第25条の3(教育内容等の改善のための組織的な研修等)の下に定められており、各大学ではFD講演会、セミナー、ワークショップ、シンポジウム、そして授業アンケートの活用など具体的な取り組みが進められている。中でも学生による「授業アンケート」はFD活動の重要な支柱となるといわれている。全人的な教育指導が求められる初等・中等教育現場と異なり、大学における教育活動は専ら授業において目の前にいる学生に向かって行われる。初等・中等教育学校では教員個々の力で学校を改善していく事は至難であり教師団としての結束が学校作りに必須となるが、授業中心に教育活動を展開する大学においては、教員一人一人の努力がそのまま学校の評価として反映されることになる。まさに、上述した三点の改善のための診断書となるのが「授業アンケート」である。

本学における全学的取り組みとしての「授業アンケート」は、平成14年度に導入された。以降、平成15年度春学期、16年度春学期、17年度秋学期と継続して行われ、諸般の事情から一時休止されたものの平成20年度春学期に再開し、今回の21年度秋学期アンケートにおいて第6回目となる。初回、そして第二回目までは質問項目、アンケートの実施方法などを含め試験導入的意味合いが強く、実施主体である本委員会においても、アンケート結果の全体像を把握することなく回収結果のみが各担当教員に報告された。しかし、平成16年度春学期以降は質問項目を精選し、春秋学期ごとに隔年実施するなどより組織化されるとともに、アンケート結果の比較・分析報告を教職員・学生など学内だけに留めず外部にも公開させていただいている。

今回の授業アンケートでは、1月18日から1月26日までをアンケート期間に設定し、集中講義を含め秋学期履修可能な全ての科目を対象としている。具体的には、科目数181科目のうち実施した科目は169科目、実施率は93.4%であった。また、総履修者数4197に対し回収数は2662であり、実施科目における回収率は63.4%であった。

講義規模の授業評価におよぼす影響について

1 この節の目的

授業の履修者数が多くなると、学生が授業から受ける様々な便益は低下するだろうという予測があります。たとえば、教員が学生への指導に費やせる時間は、授業時間内についても授業時間外についても、履修者数が増えたからといって増加するわけではありません。ですから、ある授業の履修者数が増えれば、学生一人当たりをフォローすることができる時間は減少することになってしまうでしょう。こういった「混雑」の効果は、前回までに行われたアンケートでも観察されています。2008 年度春 semester のアンケートの結果では、授業の総合的な評価から成績評価の基準の明確さまでほとんどの項目で、履修者数が多いほど、その授業の平均点は低くなるという傾向がありました¹。こうしたことを背景に、前回のアンケート結果の分析では時間割やカリキュラムによる履修者数の平準化が提言されていました。この節では、こうした予測を今回のアンケート結果から再検証します。

2 アンケート結果

2.1 使用するデータについて

この節では前回(2005 年度)の授業アンケートの結果と今回の授業アンケートの結果とを比較して議論するため、すべての授業を分析の対象とするのではなく、以下の条件で範囲を限定します：(i)2005 年度と 2009 年度とで同一の教員が担当している授業、(ii)どちらの回でも十分有効と思われる数のアンケート用紙が回収されている授業²。その結果、ここでの分析の対象となった授業の数は 27 になります。

2.2 履修者数とアンケートの結果

まず、前回までのアンケートの分析と同様、履修者数と各アンケート項目の平均点との関係を見てみましょう。総合評価から順に、履修者数を横軸に、各項目の平均点を縦軸にとった散布図が、以下の図 1 から図 8 になります。図中の各点はひとつひとつが授業に対応し、その点が右の方にあるほど履修者数が多いこと、左の方にあるほど少ないことを意味します。また、上の方にあるほどその項目の平均点が高いこと、下の方にあるほど低いことを意味します。したがって、これまでの予測が正しいなら、左上から右下にかけて点が分布するはずですが、

散布図では、総合評価をはじめ多くの項目で、履修者数と平均点とが相反する傾向が

¹ アンケートには「成績評価の基準が明確に示されていた」や「担当教員の熱意が感じられた」といった項目もありますが、こうした項目でも履修者数が多い授業の方が平均点が低いという傾向が見られました。なぜ履修者数の増加によってなぜこれらの点数が減少するのか、不思議に思う方も多いかもしれません。しかし、アンケートでは、回答者はそれぞれの項目を絶対的な基準で採点することはできず、どの項目でも対象(この場合であれば授業)への漠然とした印象に影響されて採点してしまうのがむしろ一般的です。

ですから、もし履修者数の増加によって授業の漠然とした印象が変化してしまうなら、直接は履修者の人数に関係無さそうな項目であっても影響を受けてしまうことがあり得ます。ですが、逆に言えば、履修者数が多い授業ほどほとんどの項目で平均点が低くなっているということから、履修者数の多い授業ほどこの漠然とした印象が悪くなっているという示唆を得ることは可能でしょう。

² この基準としては、ここでは 16 人以上としました。なお、(ii)の基準を設けず(i)だけを考えた場合に対象となる授業の数は、履修者数が 1 人の授業や専門ゼミナール、総合講座まで含めて 101 になります。

見てとれそうです(図中の直線は最小二乗法による回帰直線で、全体的な傾向を表しています。)

より厳密な検証を行うため、それぞれのアンケート項目の平均点と履修者数との回帰分析を行ったのが表 1 です³。この回帰分析の結果から判断すると、偶然ではなく統計的に有意とみなせそうな関係は設問 8 と設問 15 となります。設問 8 の質問内容は「教室の大きさや設備は適切だった」であり、設問 15 の質問内容は「他の受講生の受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった」です。これらの項目に関しては、履修者数が多い授業では相対的に学生の評価は低くなっているとみなされます。

質問	総合	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7
推定値 ×1000	-2.634	-0.903	-1.075	-1.516	-4.352	-2.979	-0.794	-1.864
p 値	0.225	0.544	0.527	0.390	0.102	0.130	0.713	0.369
質問	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14	設問 15
推定値 ×1000	-3.116	-1.920	0.448	0.710	-1.362	-2.102	-3.402	-6.387
p 値	0.080 ⁺	0.358	0.762	0.760	0.676	0.394	0.177	0.044 [*]

表 1: 履修者数と各項目の平均点との関係

2.3 授業ごとに見たときの履修者数とアンケートの結果

次に、授業ごとに見た履修者数とアンケートの結果との関係を見ましょう。

ここまでの分析では、授業全体の関係を見てきました。しかし、各授業では履修者数以外にも多くの要因が異なっており、それらはしばしば互いに影響しあっているため、こうした分析では授業ごとの特性などによる影響との識別ができません。そこで、ここでは授業を固定してみたときに、履修者数が増加した場合にはアンケートでの平均点が低下し、履修者数が減少した場合にはアンケートでの平均点が上昇する、という関係があるのかを検証します。

総合評価から順に、各授業の履修者数の変化を横軸に、各アンケート項目の平均点の変化を縦軸にとった散布図が、以下の図 9 から図 14 です⁴。図中の点は、右の方にあるほど履修者数が増加したことを、左の方にあるほど履修者数が減少したことを意味し、また、上の方にあるほど平均点が上昇したことを、下の方にあるほど低下したことを意味します。したがって、これまでの予測が正しいなら、履修者数が増加した場合には平均点は低下し、履修者数が減少した場合には平均点は上昇するはずなので、各授業をあらわす点は左上から右下にかけて分布するはずです。

散布図からは、履修者数の増加が各項目の平均点の低下に結びつく(あるいはその逆)という傾向は見とれません。むしろ、傾向としては履修者数が増加すれば平均点も上昇するという関係にも見えます。

³ 回帰係数の推定値は 1000 倍したものを記載しました。したがって、その数値の意味は「履修者数が 1000 人増えたときにその項目の平均点に変化すると予測される大きさ」です。10 人増えた場合の変化は、この 100 分の 1 となります。なお、この値がマイナスであれば、減少が予測されることを意味しています。

⁴ 前回のアンケートと今回のアンケートとで共通して聞かれなかった項目は除外しています。

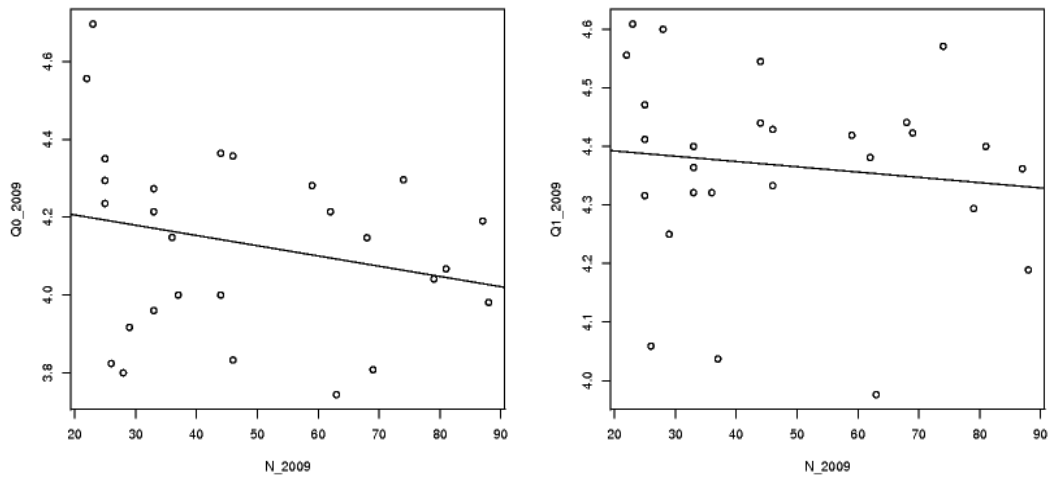


図 1: 履修者数と総合評価(左)・設問 1(右)

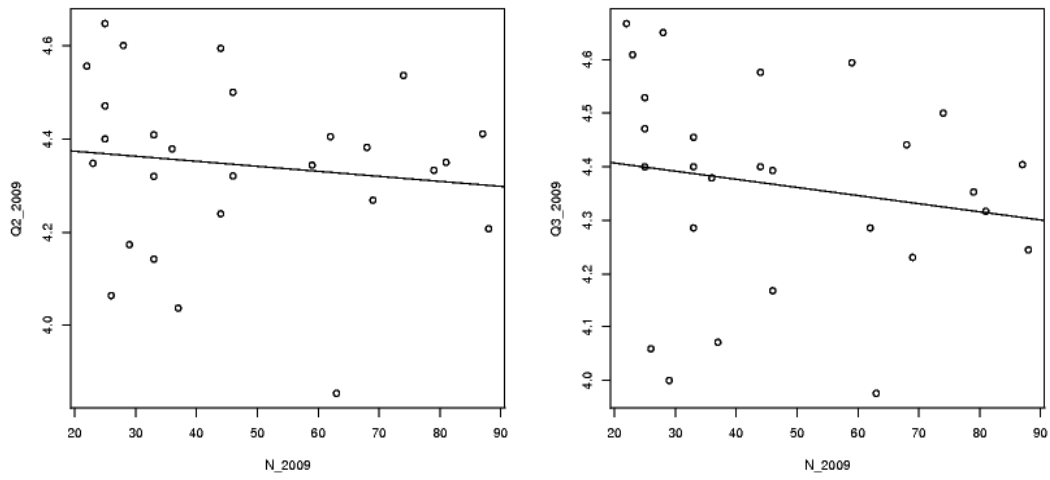


図 2: 履修者数と設問 2(左)・設問 3(右)

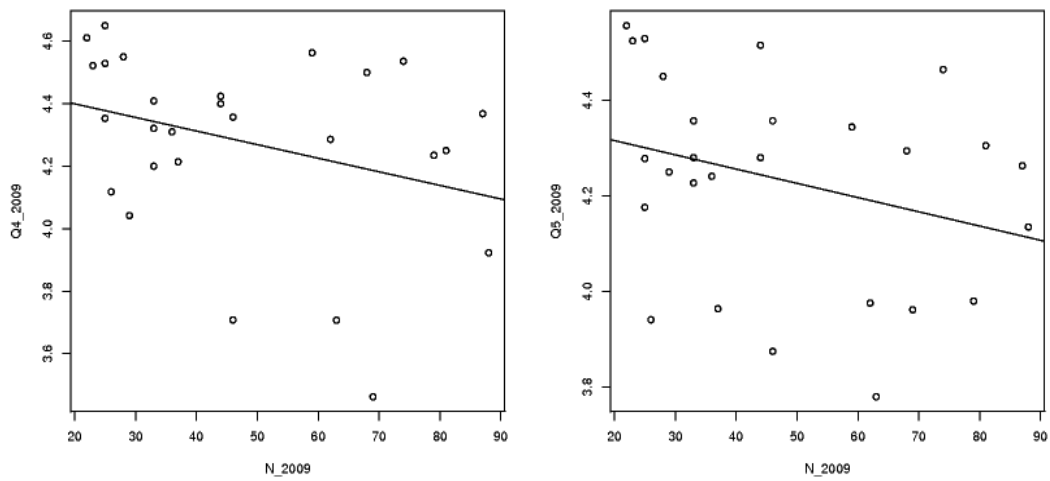


図 3: 履修者数と設問 4(左)・設問 5(右)

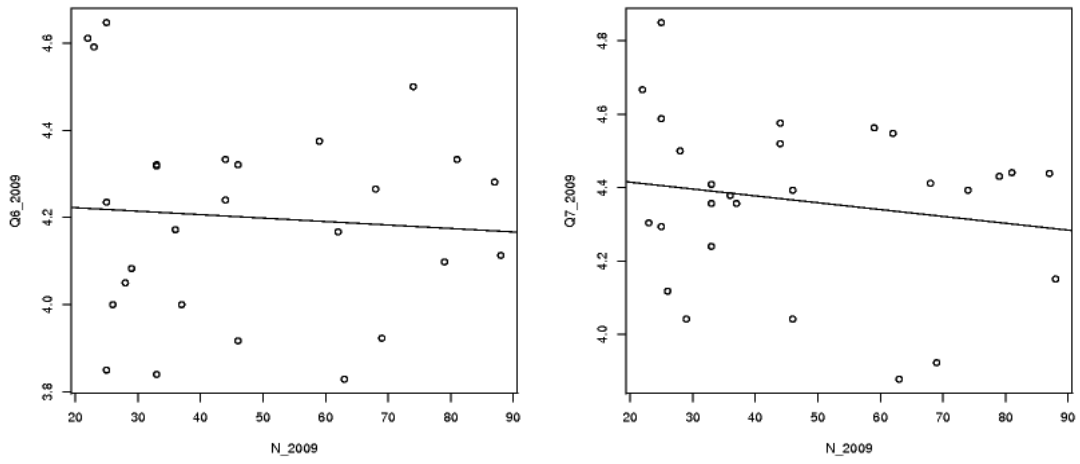


図 4: 履修者数と設問 6(左)・設問 7(右)

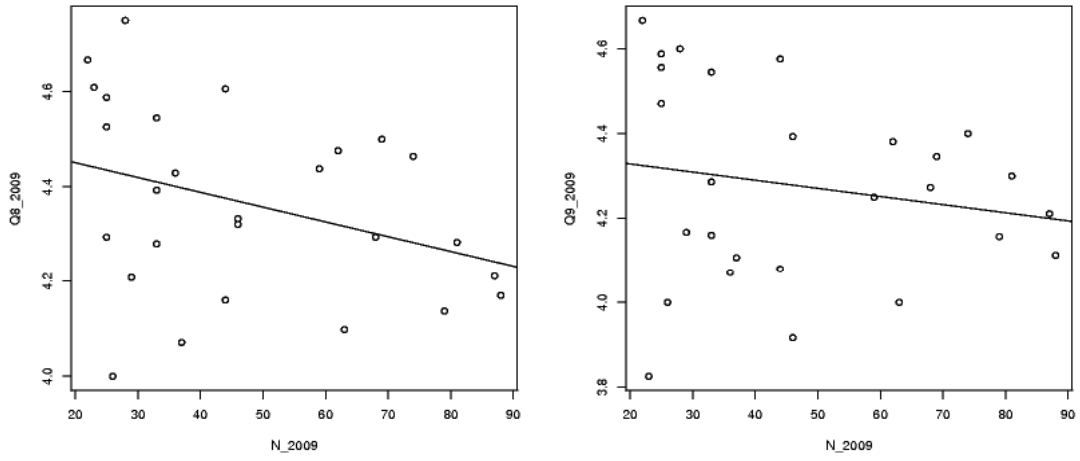


図 5: 履修者数と設問 8(左)・設問 9(右)

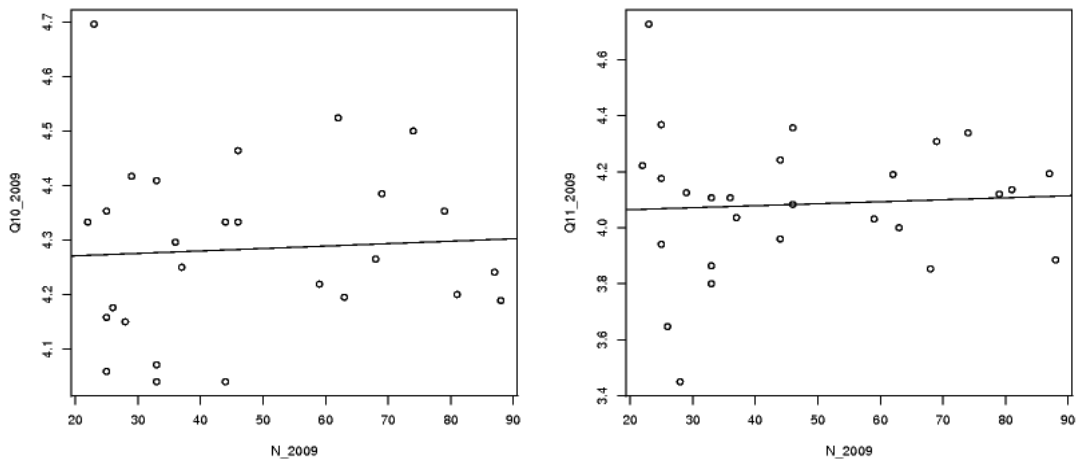


図 6: 履修者数と設問 10(左)・設問 11(右)

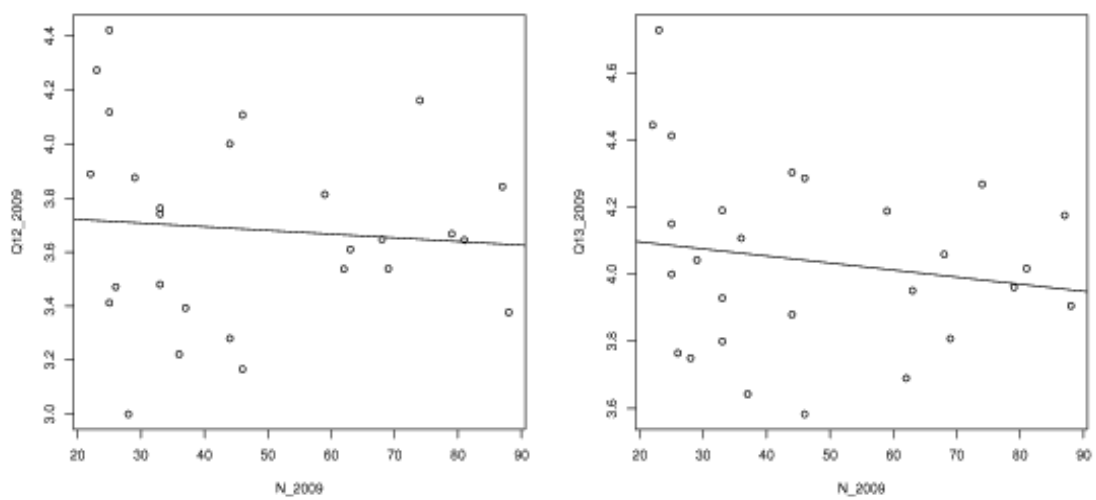


図 7: 履修者数と設問 12(左)・設問 13(右)

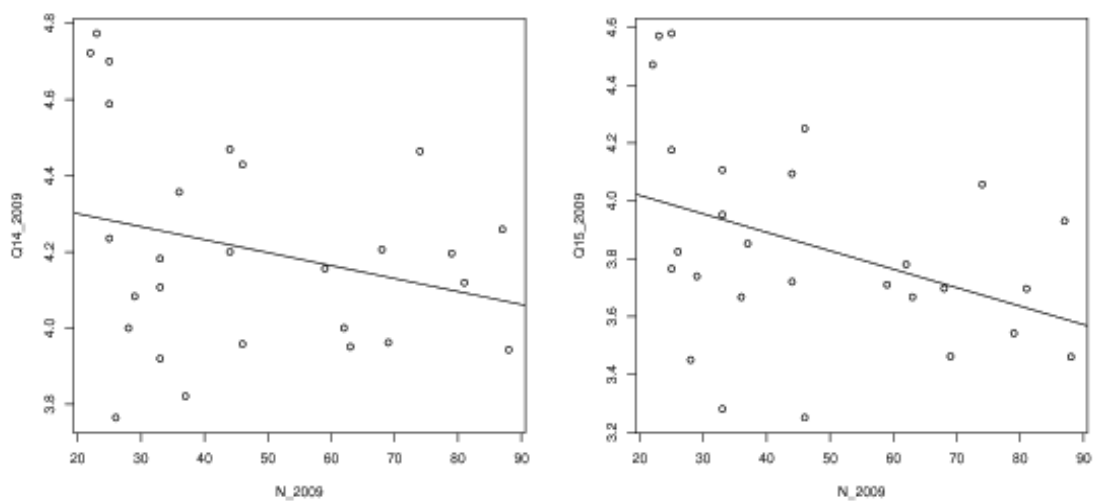


図 8: 履修者数と設問 14(左)・設問 15(右)

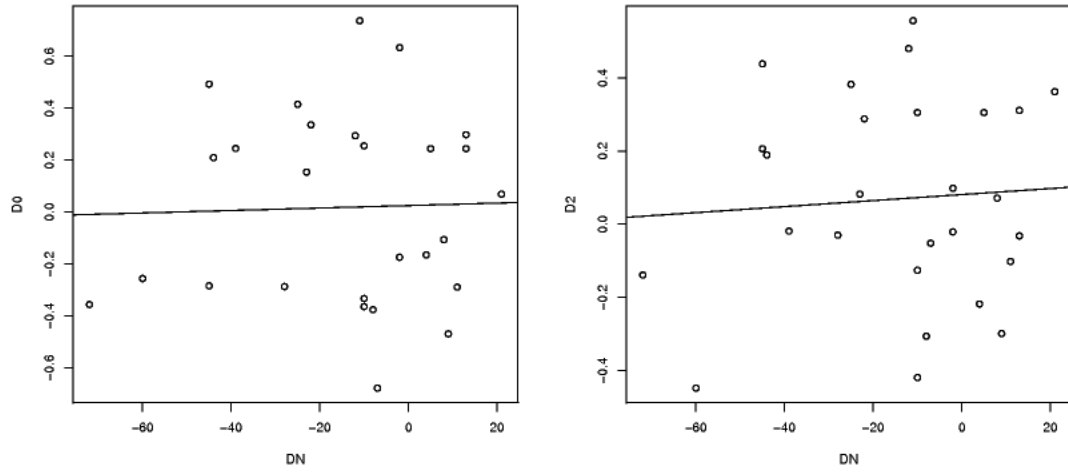


図 9: 履修者数と総合評価(左)・設問 2(右) の変化

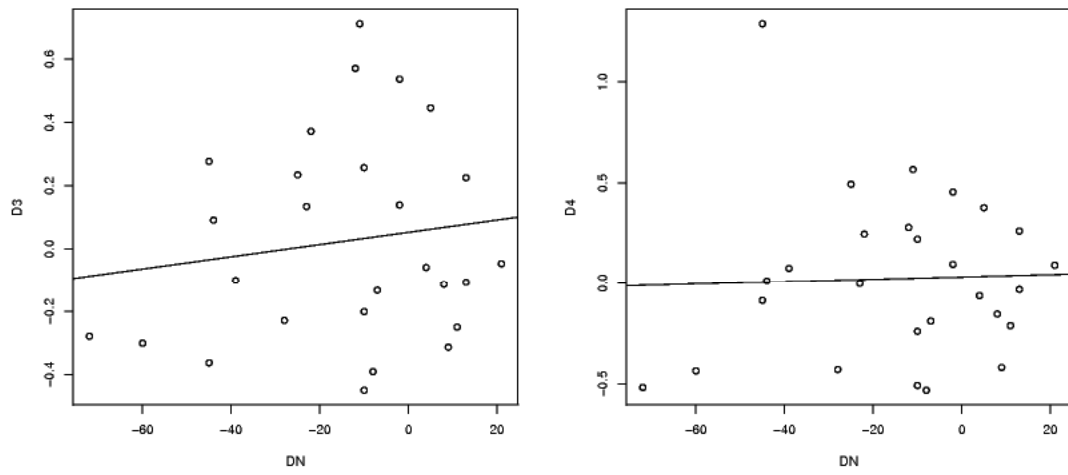


図 10: 履修者数と設問 3(左)・設問 4(右) の変化

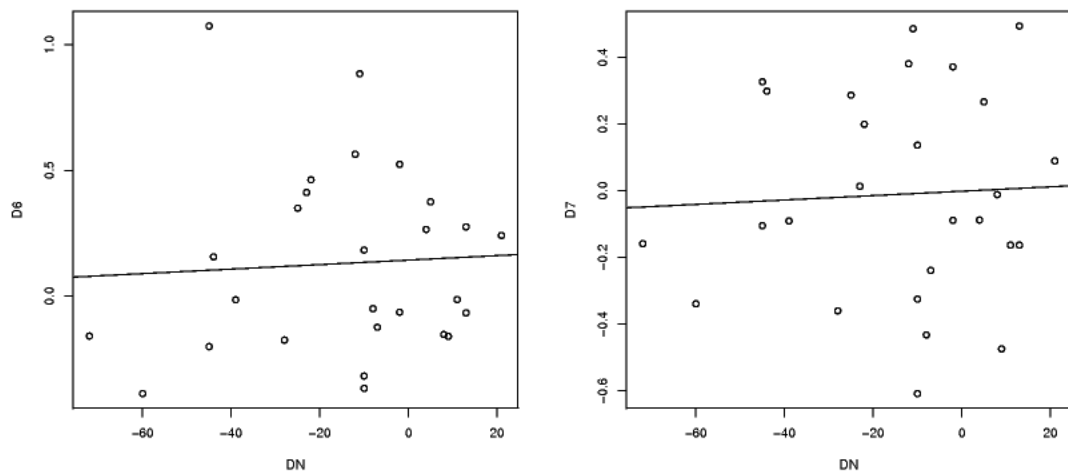


図 11: 履修者数と設問 6(左)・設問 7(右) の変化

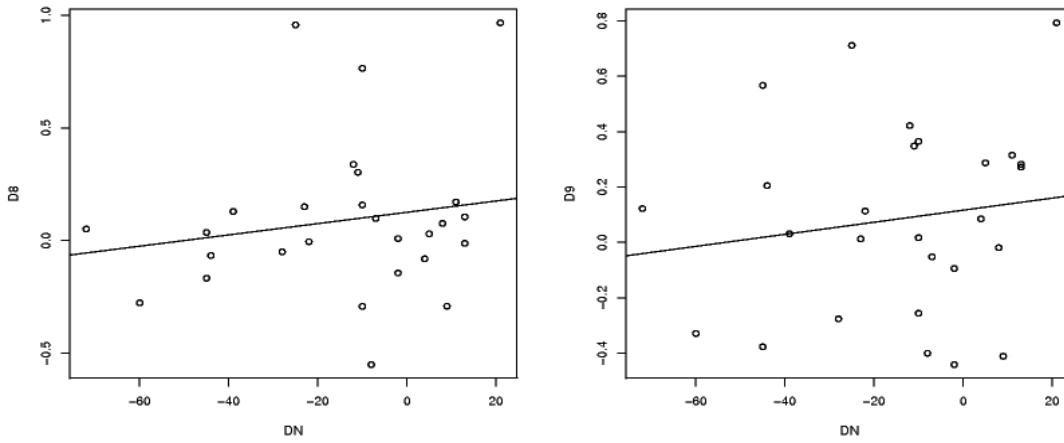


図 12: 履修者数と設問 8(左)・設問 9(右) の変化

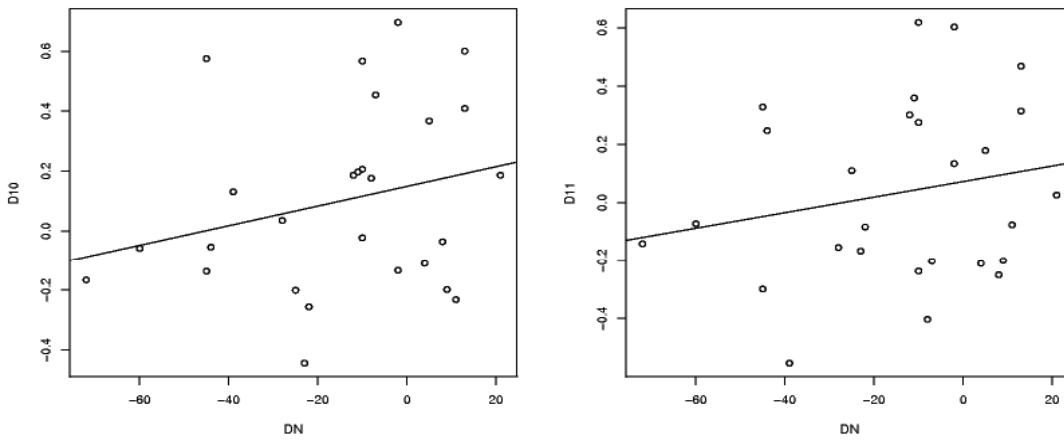


図 13: 履修者数と設問 10(左)・設問 11(右) の変化

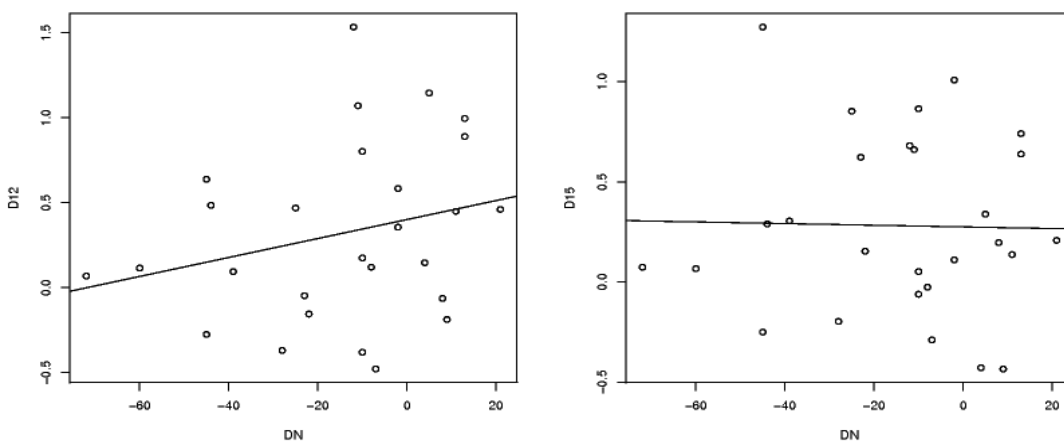


図 14: 履修者数と設問 12(左)・設問 15(右) の変化

質問	総合	設問 2	設問 3	設問 4	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 15
推定値 ×1000	0.475	0.822	1.941	0.598	0.895	0.657	2.505	2.178	3.285	2.665	5.578	-0.414
p 値	0.879	0.726	0.475	0.863	0.774	0.801	0.392	0.449	0.1944	0.299	0.195	0.9131

表 2: 履修者数の変化と各項目の平均点の変化との関係

やはり、より厳密な検証を行うため、それぞれの平均点の変化と履修者数の変化との回帰分析を行ったのが表 2 です⁵。しかし、この回帰分析の結果から判断すると、偶然ではなく統計的に有意とみなされる関係は存在しませんでした。また、回帰係数の推定値はやはりプラスの質問項目がほとんどです。

2.4 図解

なぜ、全授業を横断的に観察すると、履修者数の多い授業は各アンケート項目の平均点が低いのに、個別の授業では、履修者数が増えても各アンケート項目の平均点は低下せずむしろ上昇の傾向すらあるという、一見矛盾した現象が起こるのでしょうか。より単純化して考えてみると以下のように考えることができます。

まず、授業全体は図 15 のように分布しています。このため、2.2 で見てきたような結果が得られます。しかし、それぞれの授業で人数が増減すると、この分布に沿って左上・右下に移動するのではなく、図 16 のように各授業でそれぞれの方向に変化しています。そのため、2.3 で見たような結果が得られることになります。

したがって、何らかの外生的な方法で各授業の履修者数を操作したとしても、全体の分布に沿った変化をさせることは難しいだろうと考えられます。

3 まとめ

履修者数の多い授業では、各アンケート項目の平均点は低くなっており、逆に、履修者数の少ない授業では、各アンケート項目の平均点は高いという傾向が見られました。特に、教室の大きさについて問う設問 8 と他の受講生について問う設問 15 に関しては、履修者数が多い授業ではそれらの項目の平均点が低いという関係は統計的に有意なものでした。

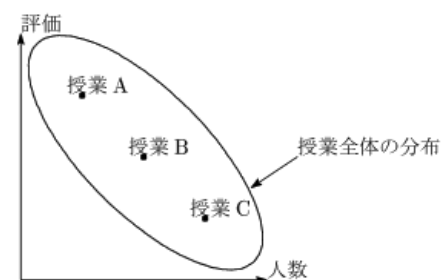


図 15:

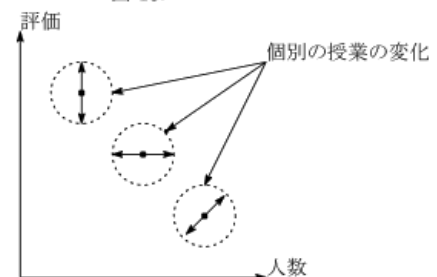


図 16:

⁵ ここでも回帰係数の推定値は 1000 倍したものを記載しました。したがって、その数値の意味はやはり「履修者数が 1000 人増えたときにその項目の平均点に変化すると予測される大きさ」です。10 人増えた場合の変化はその 100 分の 1 となります。この値がマイナスであれば、減少が予測されることを意味しています。

しかし、履修者数が増加してもどのアンケート項目の平均点も低下するとは言えませんでしたが、また、逆に、履修者数が減少してもどのアンケート項目の平均点は上昇するとは言えませんでした。むしろ、その逆に、履修者数が増加したときには平均点も上昇し、減少したときには低下する、という傾向にも見えました。

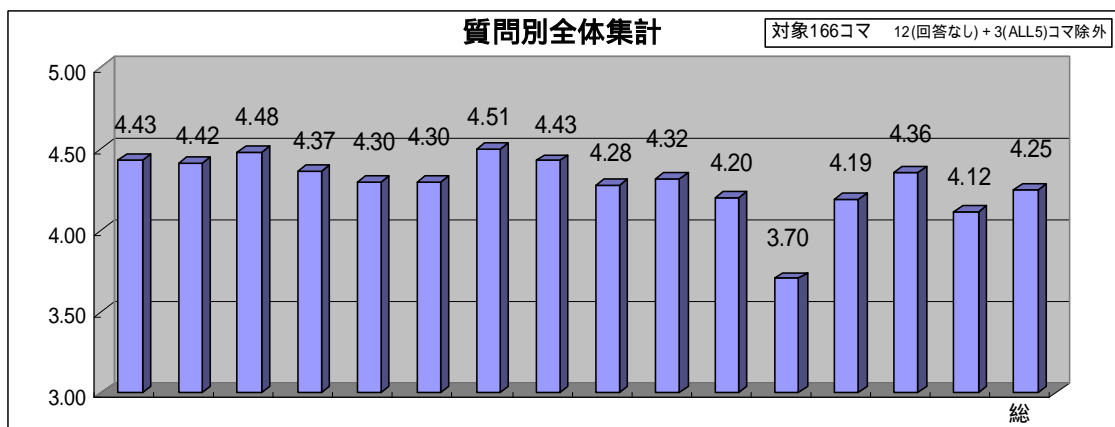
アンケートデータの分類別集計について

まず、基礎データのクリーニングを行い、単純な入力ミスによると思われる異常値2件を修正(2.3 1,54 5)した。過去は、2004春2件、2005秋0件、2008春2件であった。

質問項目は2008春と全く同一である。全体集計の結果を図表2-1に示す。

全体集計の方法は、2004春に検討後の結論として採用したコマ単位平均の平均を今回も継続採用した。また、コマ単位でのオール「5」3件を除外した。過去は、2004春3件、2005秋0件、2008春0件であった。コマ単位平均を ~ 全部について平均した値は4.30であり、総合評価の平均4.25と若干の差異が見られた。2008春は、4.28と4.26であった。

番号	質 問	コマ平均の平均
	成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43
	授業案内にそって行われた。	4.42
	準備は充分になされていた。	4.48
	話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	4.37
	教材や機器・黒板の使用は適切だった。	4.30
	速度や進め方は適切だった。	4.30
	担当教員の熱意が感じられた。	4.51
	教室の大きさや設備は適切だった。	4.43
	受講生の数は適切だった。	4.28
	よく出席した。	4.32
	受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.20
	予習や復習などの努力をした。	3.70
	この分野への興味が高まった。	4.19
	自分にとってプラスになった。	4.36
	他の受講生の受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.12
総	総合評価(5を最高点として1までの5段階評価)	4.25

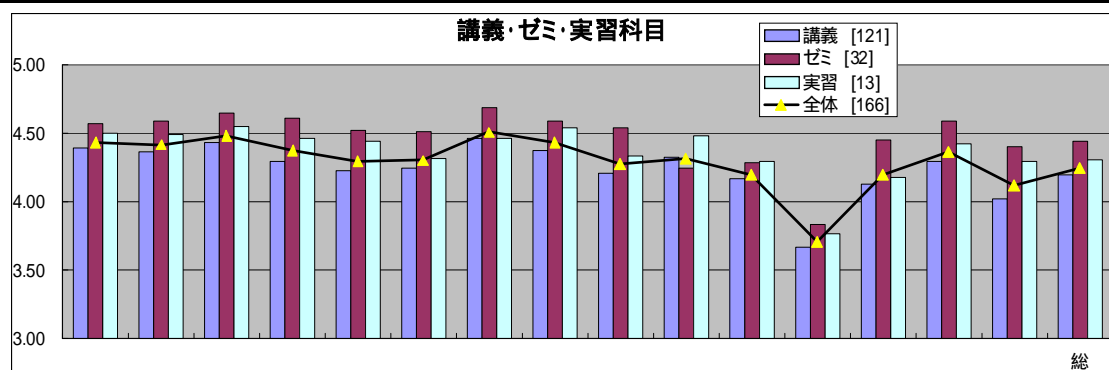


図表2-1

全体集計結果を見ると、ほとんどの質問において2008春との差が0.1未満である。過去、回を重ねるごとに少しずつ上昇していた傾向が止まり、安定期に入ったとみられる。情報系及び国際コミュニケーション学科のカリキュラム改訂(2006年度実施)が完成年度を迎えたことが関係しているかも知れない。

質問ごとの差も前回と全く同様の傾向であるが、その中で、最も値が低かった項目が多少なりとも改善されたのは喜ばしいことである。予習復習が3.54 3.70(+0.16)、他の受講生のマナーが4.01 4.12(+0.11)である。

番号	質問	講義 [121]	ゼミ [32]	実習 [13]	全体 [166]
	成績評価の基準が明確に示されていた。	4.39	4.57	4.50	4.43
	授業案内にそって行われた。	4.36	4.59	4.49	4.42
	準備は充分になされていた。	4.43	4.65	4.55	4.48
	話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	4.30	4.61	4.46	4.37
	教材や機器・黒板の使用は適切だった。	4.22	4.52	4.44	4.30
	速度や進め方は適切だった。	4.24	4.50	4.31	4.30
	担当教員の熱意が感じられた。	4.46	4.68	4.46	4.51
	教室の大きさや設備は適切だった。	4.38	4.59	4.54	4.43
	受講生の数は適切だった。	4.21	4.54	4.33	4.28
	よく出席した。	4.32	4.24	4.48	4.32
	受講スマナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.17	4.29	4.30	4.20
	予習や復習などの努力をした。	3.67	3.83	3.77	3.70
	この分野への興味が高まった。	4.13	4.45	4.18	4.19
	自分にとってプラスになった。	4.29	4.59	4.42	4.36
	他の受講生の受講スマナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.02	4.41	4.30	4.12
総	総合評価(5を最高点として1までの5段階評価)	4.19	4.44	4.31	4.25

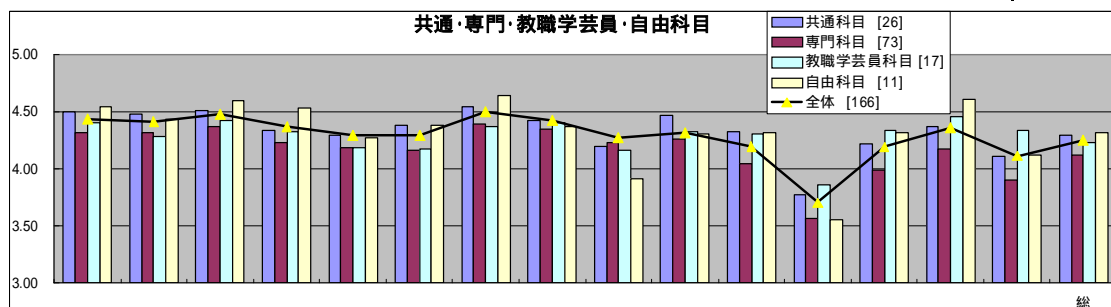


図表2 - 2

図表2 - 2に示した講義・ゼミ・実習科目別の結果を見ると、ゼミ・実習科目の方が講義科目より良い結果になっている。これは過去と同様の傾向であるが、今回はゼミの値の高さが際立っている。2008春と比べて特に、予習復習の3.64 3.83(+0.19)や興味の4.17 4.45(+0.28)が大きく上昇している。これらは、2005秋と比べてもかなり高く、春秋の科目構成の違い(春:「大学入門ゼミナール」「専門ゼミナール2」、秋:「専門ゼミナール1」「専門ゼミナール3」)によるものだけではないといえる。

実習科目は、2008 春に総合評価でゼミを上回ったが、今回は 4.41 4.31(-0.10)と低下したためゼミを下回る結果であった。しかし、出席と回答者の受講マナーについては、今回もゼミを上回っている。

番号	質問	共通科目 [26]	専門科目 [73]	教職学芸員科目 [17]	自由科目 [11]	全体 [166]
	成績評価の基準が明確に示されていた。	4.51	4.32	4.40	4.54	4.43
	授業案内にそって行われた。	4.48	4.32	4.28	4.44	4.42
	準備は充分になされていた。	4.51	4.37	4.43	4.60	4.48
	話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	4.34	4.23	4.33	4.54	4.37
	教材や機器・黒板の使用は適切だった。	4.30	4.19	4.19	4.27	4.30
	速度や進め方は適切だった。	4.38	4.16	4.18	4.38	4.30
	担当教員の熱意が感じられた。	4.55	4.39	4.38	4.64	4.51
	教室の大きさや設備は適切だった。	4.42	4.35	4.40	4.37	4.43
	受講生の数は適切だった。	4.20	4.23	4.16	3.92	4.28
	よく出席した。	4.47	4.27	4.33	4.30	4.32
	受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.33	4.05	4.30	4.32	4.20
	予習や復習などの努力をした。	3.78	3.57	3.86	3.55	3.70
	この分野への興味が高まった。	4.22	3.99	4.34	4.31	4.19
	自分にとってプラスになった。	4.38	4.18	4.46	4.61	4.36
	他の受講生の受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった	4.11	3.91	4.34	4.12	4.12
総	総合評価(5を最高点として1までの5段階評価)	4.29	4.12	4.23	4.32	4.25



図表 2 - 3

図表 2 - 3 に示した共通・専門・教職学芸員・自由科目別の結果を見ると、教職学芸員・専門科目に比べて共通・自由科目が多く項目で高い値を示している。これは、教職学芸員・自由科目が高い値を示した 2008 春とは異なり、2005 秋と同様の傾向である。この分類については春・秋の差が明瞭に現れるといえる。

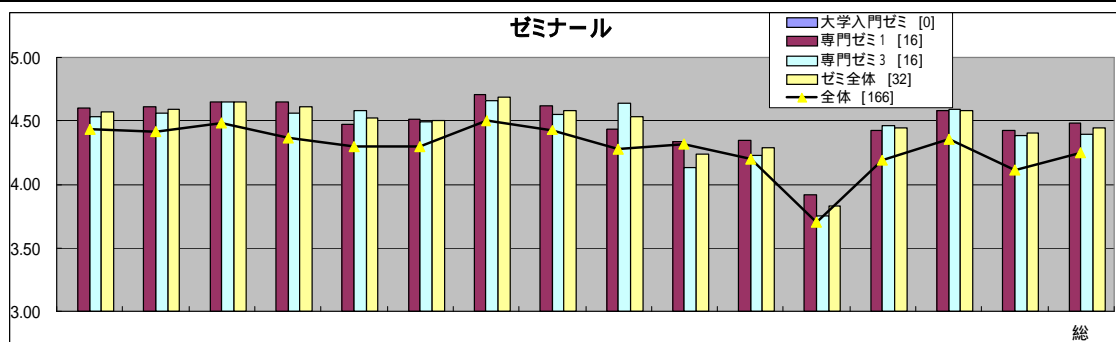
自由科目は、毎回高い値を示す。特に希望して受講する科目であるので、当然である。2005 秋に原因不明とした教職学芸員科目の低下が、今回も見られた。総合評価が 4.61 4.23(-0.38)であり、ほとんどの質問で 0.2 以上低下している。4 回のアンケートを通じて、これだけ大きな差が出ていることから、開講科目の違いが原因であると推測される。

共通科目は、2004 春低、2005 秋やや高、2008 春やや低の結果が出ていたが、今回総合評価が 4.18 4.29(+0.11)と値まで完全に一致して 2005 秋に戻った。興味が 3.95 4.22(+0.27)と大きく上昇(回復)している点を見ても、春に比べて(特に 1 年生が大学に慣れて)より自分の希望に合った科目選択ができているためだと思われる。

専門科目では、2005 秋以降指摘している 予習・復習の際立った低さが 3.38 3.57(+0.19)と改善の方向にあるが、すべての質問について全体平均を下回っており、グラフ上でもその低さが目立っている。今回もまた、特に由々しき問題であると言わざるを得ない。現カリキュラムにおけるコースの縛りの厳しさ(特に専門選択科目)に一因がある可能性もある。2010 年度からの新カリキュラムでは、専門選択科目は学科・コースを問

わずに選択が可能となるため、数年後の授業アンケート結果で改善が見られることを期待したい。

番号	質問	大学入門ゼミ [0]	専門ゼミ1 [16]	専門ゼミ3 [16]	ゼミ全体 [32]	全体 [166]
	成績評価の基準が明確に示されていた。		4.60	4.53	4.57	4.43
	授業案内にそって行われた。		4.61	4.57	4.59	4.42
	準備は充分になされていた。		4.65	4.65	4.65	4.48
	話し方は明瞭で聞き取りやすかった。		4.65	4.56	4.61	4.37
	教材や機器・黒板の使用は適切だった。		4.47	4.58	4.52	4.30
	速度や進め方は適切だった。		4.52	4.49	4.50	4.30
	担当教員の熱意が感じられた。		4.71	4.66	4.68	4.51
	教室の大きさや設備は適切だった。		4.62	4.55	4.59	4.43
	受講生の数は適切だった。		4.43	4.63	4.54	4.28
	よく出席した。		4.34	4.14	4.24	4.32
	受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。		4.34	4.23	4.29	4.20
	予習や復習などの努力をした。		3.92	3.75	3.83	3.70
	この分野への興味が高まった。		4.43	4.47	4.45	4.19
	自分にとってプラスになった。		4.58	4.59	4.59	4.36
	他の受講生の受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。		4.43	4.39	4.41	4.12
総	総合評価(5を最高点として1までの5段階評価)		4.48	4.40	4.44	4.25



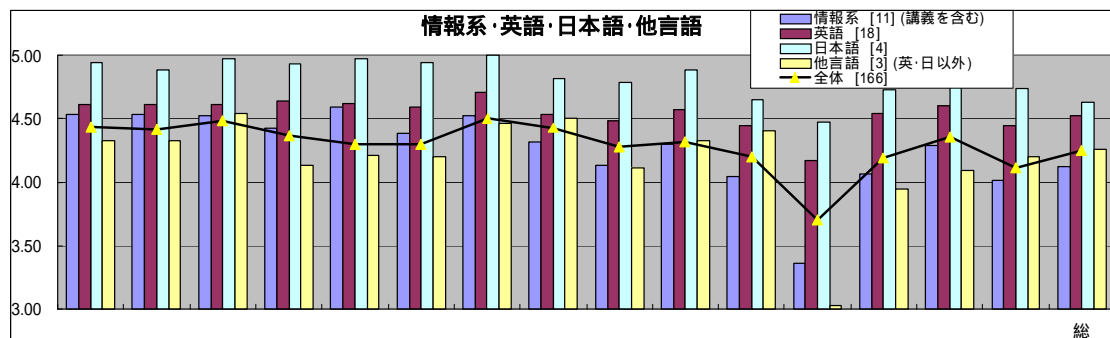
図表 2 - 4

図表 2 - 4 に示したゼミナールの結果を見ると、2004 春及び 2008 春に見られたのと同様に全体平均を大きく上回る傾向が見られる。一方、2005 秋は全体平均とあまり差がない結果であった。2008 春には、これは春と秋の開講科目の違いによるものであろうと考えたが、そうではないことがわかった。

ゼミナールにおいて最も気になる点は、今回も 出席である。講義よりもよく出席するのが一般的ではないかと思われるが、実際は逆の結果が出ている。特に「専門ゼミナール3」の4.14は、全体平均比-0.18である。もし、「慣れあい」や「甘え」によるものであるとしたら問題である。

「大学入門ゼミナール」は、秋は極めて少人数のため、元々参考にはならないが、今回は回答がゼロのためデータがない。

番号	質問	情報系 [11] (講義を含む)	英語 [18]	日本語 [4]	他言語 [3] (英・日以外)	全体 [166]
	成績評価の基準が明確に示されていた。	4.53	4.61	4.94	4.33	4.43
	授業案内にそって行われた。	4.53	4.61	4.88	4.33	4.42
	準備は充分になされていた。	4.53	4.61	4.98	4.55	4.48
	話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	4.42	4.64	4.93	4.13	4.37
	教材や機器・黒板の使用は適切だった。	4.59	4.62	4.97	4.21	4.30
	速度や進め方は適切だった。	4.39	4.59	4.94	4.20	4.30
	担当教員の熱意が感じられた。	4.52	4.71	5.00	4.47	4.51
	教室の大きさや設備は適切だった。	4.32	4.53	4.82	4.50	4.43
	受講生の数は適切だった。	4.13	4.48	4.78	4.11	4.28
	よく出席した。	4.30	4.57	4.88	4.32	4.32
	受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.05	4.44	4.65	4.40	4.20
	予習や復習などの努力をした。	3.37	4.17	4.48	3.03	3.70
	この分野への興味が高まった。	4.07	4.54	4.73	3.95	4.19
	自分にとってプラスになった。	4.29	4.60	4.75	4.10	4.36
	他の受講生の受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.02	4.44	4.74	4.20	4.12
総	総合評価(5を最高点として1までの5段階評価)	4.12	4.52	4.63	4.26	4.25



図表 2 - 5

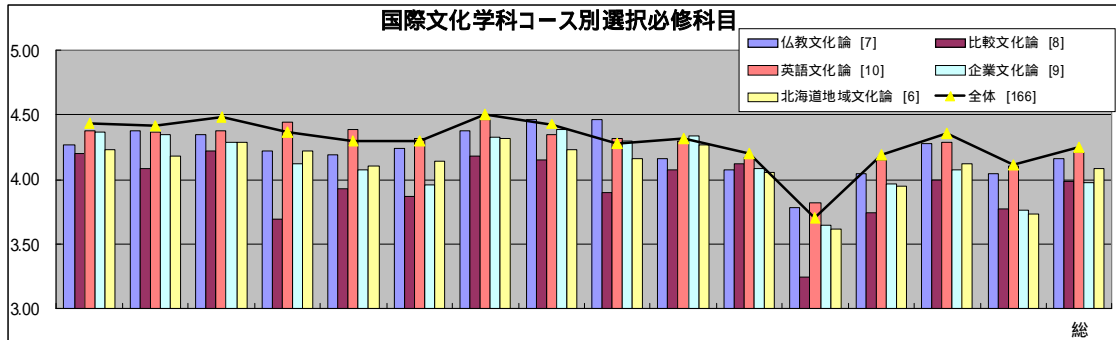
図表 2 - 5 に示した情報系・英語・日本語・他言語別の結果を見ると、英語と日本語については全体平均を上回る結果が出ている。

日本語は、各質問共に極めて高い値が出ている。初めて集計を行った 2008 春に高い値が出たことを報告したが、今回はそれをも大きく上回る値である。特に 教員熱意は 5.00 である。演劇公開授業などを見ると、その様子がうかがえる。

英語も 2008 春に比べて上昇している。特に、予習・復習の 3.76 4.17(+0.41)が顕著である。2005 秋も 3.76 であったので、この点は素晴らしい。

情報系は、2008 春と比べて総合評価が 4.33 4.12(-0.21)と低下している。質問別では、受講マナーの 4.40 4.05(-0.35)や 予習・復習の 3.71 3.37(-0.34)などの低下が目立つ。原因は定かではない。2008 春に比べて今回は平均受講者数が少なく、教員のフォローがより細かくできたために、かえって学生の自主性が低下したのであろうか。

番号	質問	仏教文化論 [7]	比較文化論 [8]	英語文化論 [10]	企業文化論 [9]	北海道地域文化論 [6]	全体 [166]
	成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.20	4.38	4.37	4.23	4.43
	授業案内にそって行われた。	4.37	4.08	4.37	4.35	4.19	4.42
	準備は充分になされていた。	4.35	4.22	4.38	4.29	4.29	4.48
	話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	4.22	3.69	4.44	4.12	4.22	4.37
	教材や機器・黒板の使用は適切だった。	4.19	3.93	4.38	4.08	4.11	4.30
	速度や進め方は適切だった。	4.24	3.87	4.32	3.96	4.14	4.30
	担当教員の熱意が感じられた。	4.38	4.18	4.46	4.33	4.32	4.51
	教室の大きさや設備は適切だった。	4.46	4.15	4.35	4.39	4.23	4.43
	受講生の数は適切だった。	4.46	3.90	4.32	4.30	4.17	4.28
	よく出席した。	4.17	4.07	4.29	4.34	4.27	4.32
	受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった。	4.08	4.12	4.17	4.09	4.05	4.20
	予習や復習などの努力をした。	3.78	3.24	3.83	3.65	3.61	3.70
	この分野への興味が高まった。	4.04	3.75	4.15	3.96	3.95	4.19
	自分にとってプラスになった。	4.28	4.00	4.28	4.07	4.12	4.36
	他の受講生の受講マナー(遅刻・途中退席・私語・居眠り・携帯電話など)はよかった	4.05	3.77	4.11	3.76	3.74	4.12
総	総合評価(5を最高点として1までの5段階評価)	4.17	3.98	4.22	3.97	4.09	4.25



図表 2 - 6

図表 2 - 6 に示した国際文化学科コース別選択必修専門科目別は、2005 秋から集計を始めた(2004 春はコース制が始まった直後であまり開講されていなかった)ものである。複数コースの選択必修科目となっている科目(「比較文化論」「比較宗教論」)については、各コースに重複カウントした。

結果を見ると、今まで値の高さが目立っていた英語文化論コースが低下してしまった。2008 春と比べると、予習・復習を除く全ての質問について低下している。元が高かったせいもあるが、0.2 以上低下した質問が多く、教員熱意 4.75 4.46(-0.29)、プラスになった 4.55 4.28(-0.27)、準備 4.63 4.38(-0.26)など気になる項目が多い。

人数の急増(特に 2 年生)に加え、小暮客員教授のご病気等のアクシデント等のため、2008 春にもっとも値が低かった企業文化論コースは、新任の宇田川先生の加入もあってやや回復の傾向を見せている。受講マナー 3.81 4.09(+0.28)や 興味 3.72 3.96(+0.24)などがその現れである。

比較文化論コースは、グラフ上でも他コースに比べて低さが目立つが、2008 春との比較でもすべての質問で値が下がっている。話し方 4.01 3.69(-0.32)や 興味 4.01 3.75(-0.27)など、主要な項目での低下も目立つ。大変心配な状況である。新カリキュラムにおけるコース再編を通じて改善されることを期待したい。

自由記述欄について

1 履修動機について

どの教科においても、必修であるから、教職などで単位が必要であるからという動機が最も多く、続いて、その科目について興味があったからという理由が続く。また、**先生の授業だから、という教員に対して魅力を感じていたからという動機も少なくはない。これらに対して、「他に取るものがなかったから」などの消極的動機もみられた。

2 授業のよかった点について

授業のテーマについての興味や関心、知識が深まった、という評価が多かった。続いて面白かった、楽しかった、わかりやすかったなどの評価が多く、プリントやパワーポイント、映像などの利用も適切であるということがあげられている。担当教員の情熱や熱心さが感じられるなどもあげられる。

3 授業の悪かった点、改善すべき点について

同じ授業において、わかりにくかった、難しかった、つまらなかった、など主観的評価が分かれている。評価が分かれていないものとしては、早口であるとか、声が小さい、かつ舌が悪いなどの話し方に対するものや、板書の字が乱暴である、わかりにくい、誤字・脱字が多いなどもみられた。また、授業がシラバスとは違う、授業に来ることが遅く、終わるのが遅いなどの指摘もあげられている。

その他に、教場の大きさなどの環境が適切ではないという指摘もみられた。

4 他の授業を含むすべての授業について、意見や要望があれば書いてください。

基本的に複数のある意見のみを取り上げて分析をした。

1) 講義に関すること

- ・講義に関する意見のトップは、楽しい授業である。具体的にどんな授業が楽しいのかは不明だが、科目別における意見要望を縦覧すると「わかりやすい」ということが頻出する。また概して電子機器などを使ったビジュアルな授業が好評を得ている。ここから察するに、話だけの座学の講義よりは、機器を活用した授業が望まれていると考えられよう。もっとも、楽しみを広義に解釈すると、知的好奇心を満足させる授業が少ないということにも考えられるが、これについても現在の学生の志向を考慮しなくてはならないであろう。というのも一部学生の「終わっている」という表現に見られるように（注 ネット上の「goo 辞書」によれば 「(1)俗に、旬(しゅん)をすぎている。(2)俗に、最悪だ。絶望的だ。補足説明「終わってる」とも」とあり、時代遅れという意味に解される)そもそも大学の授業全体が今の学生の志向にあっていないという見方もあるからである。大学全入時代における大学の授業のあり方を議論する時期に来ているといえよう。
- ・これは、今日における大学の存在意義自体が問われているのかもしれない。一方では今までの大学での教養的授業を望む学生がいて、もう一方では大学に入学しながら

らその授業全体を否定する学生がいるわけである。「学生の意欲」を問題にする学生の意識の下には、「自分は意欲があるが他の学生は」という視点が見え隠れていると思われる。こうした学生の価値観は古い大学を肯定する立場に立っている。しかし、既にそれらを否定する学生がいる以上、それにも対応できる授業を考える必要があるであろう。ただし、そもそも入学した学生が基本的に学ぶことを欲しているとは限らないことにも留意しなければならない。レポートやテスト嫌いを表明している学生はでは授業評価以前の問題であろう。

- ・ 授業にオリジナルを求める意見がある。これはもっともであるが、基本的知識があってはじめてそれに対するオリジナルな内容が理解できるのである。そこから、考えるならば、おそらくは他人の受け売りだけの授業をしないで欲しいということであろう。また表現は異なっているが「同じ内容を繰り返す授業」というのも、おそらくはこの類のものを指すと見られる。基本知識の享受とそれをもとにしたオリジナルとの兼ね合いを各教員が考慮すべきであろう。

【意見・要望】 <数は回答の合計>

- 1 もっと楽しく授業をしてください/真面目すぎて固いし授業が楽しくない/もっと楽しく授業を行ってほしい/ただ書き、読みだけじゃなくて、もっと楽しい授業をしてほしい <4>
- 2 パソコンで授業を受けたい/パソコンを使いたい/コンピュータの授業はすごく役立ちます <4>
- 3 基本的に全ての授業が終わっている/大体の授業が終わっている <3>
- 4 学生の学ぶ意欲がもっと沸けばいいと思う/学生個人がもっと学ぶ意欲があれば大学は変わると思います。学ぶことの大切さに気づいていない周囲の環境に流されやすい学生が多いのでは? <2>
- 5 研究を中心に、レポートやテストがないようにしたい/レポートが多い <2>
- 6 トイレには黙って行かせて欲しい/トイレに行かせてほしい <2>
- 7 同じ内容を繰り返す授業はだめだと思う/同じ授業を繰り返す教員がいる <2>
- 8 プリントの他にもいろいろ教材を使って欲しい/授業をプリントどおりではなくオリジナルで作るべきだと思います <2>
- 9 テスト対策のプリント配付 <2>
- 10 全部の授業良かったと思う
- 11 どの授業もわかりやすいです
- 12 もっと授業の工夫をして欲しい
- 13 黒板に書いてあることがあまり理解できない先生がいるので、もっと分かりやすくして欲しい
- 14 ノートに書く量をもう少し少なくして欲しい
- 15 メールでレポートを提出したが提出したのに未提出となっており外部からでも確認できる方法をとって欲しい
- 16 ビデオを使った講義をもっと増やして欲しい
- 17 資料をもっと多く使う機会があれば良いと思う。本当に興味がある人は大切にす

るし今後も使うと思う

18 授業レベルの差がありすぎです

19 早すぎて学習が追いつかない

20 教科書や参考書を購入させといて一度も使わない科目もあったので、それなら強制しないで欲しい

21 声の小さい先生がたまにいる

22 基本的に勉強・学んでいるという感覚が低いので、もっと質の高い講義であるべきと感じた

23 小学校・中学校・高校の先生みたいに大学も研究授業を行うべきだと思います

24 もう少し優しく

25 少し時間が長い

26 もっと発言する時間を増やして欲しい

2) 受講マナーに関すること

- ・出欠の問題は基本的にはシステムの問題であり、これに学生や教員が意識をすり減らすのは本来望ましいことではないが、現状では不満として必ず上位に登場するのは、こうした問題が出席に関する平等性と教員の授業管理の問題としてとらえられるからである。またその根柢には学生や教員の人間性とも関わるからであらう。以前本学が採用していたカードリーダーの時でも問題は起きていた。ゆえに教員によっては最初と最後の二度にわたって出席カードを配る配慮をするが、それでも授業形態によっては中抜けを防ぐことはむづかしい。教室をロックしない限り、その防止は不可能であらう。しかし、これは火災や地震など緊急時の安全対策上からも望ましいことではない。
- ・私語の問題も必ず上位に登場する。これは本質的に出欠の問題と関わっていると思われる。大学の授業のすべてが私語をさせない楽しくおもしろい授業であればよいのだが、現実にはそれは不可能であらう。というのは、科目別の履修動機調査でも、必修や選択必修ゆえの履修が大半を占めており、知的興味からの履修希望は多くはない。さらに出席管理の厳正化で興味のない授業に縛り付けられ、必然的に居眠りか私語となっていく。しかし、これも今に始まったことではなく日本の大学では半世紀以上も前から見られる現象に過ぎない。興味のない学生の私語を減らすために出席管理を緩くして欠席させる方法を以前の大学教員の一部はとってきたが、今日ではそれが容認される状況にはない。今のところ授業冒頭に問題提起をし、その解答を提示しつつ、授業展開をするというような、最初にモチベーションを高めて興味を喚起し、それを維持していく方法しか提示できないが、それとて遅刻者にはあまり意味がないようである。

【意見・要望】 <数は回答の合計>

- 1 出席や遅刻に関してもう少しストイックになった方が良いような気がする。それを実施している授業は出席率が良いので/5,10分の遅刻はまだしも終了ぎりぎりに教室に入ってきて出席カードを出して帰る学生は最悪だと思う/多くの授業で終了間際に

入ってくる学生がいるので講義開始 30 分を経過した時点で、後ろのドアを施錠するなどをした方がよい（前方はトイレへの出入り）こういった問題は以前からあるし、把握できているのに何もしないのは問題だと思う/遅れて入ってきた人に対して弱い/授業途中に入室する学生が多いので規制した方がいいと思う <5>

- 2 学生の私語がなくなれば個人がもっと自分なりの勉学意欲を高めるべきでは？と感じる/私語の対策として始業時刻を確実に守るようにしたら減少すると思う、僅か 10 分だが、そこから私語が始まっているように感じる/うるさい学生に注意を/うるさい人を徹底的に注意して欲しい/毎回、私語を注意されても直らない学生がいるので退室させてもいいのでは？ <5>
- 3 中抜けのチェックをして欲しい

3) 成績評価に関する意見

- 1 成績評価はレポートとテストのどちらか 1 つにして欲しい
- 2 テスト 1 週間前にテスト内容を発表されるのは大変です。せめて 2 週間前にしてください。

4) カリキュラム・行事予定に関する意見

- 1 「英語音声学」の開講 <6>
- 2 英語科教員の増加 <4>
- 3 授業時間を少なくしてほしい/来年度から 15 回授業に参加しなければならないと思うとつらいです <2>
- 4 せっかく教職課程があるので、教育関係のゼミがあったほうが良いのでは
- 5 もっと学芸員に関する科目を増やして欲しい
- 6 授業の時間が遅くて予定を組みづらい
- 7 「考古学」は資格を得たい人だけに単位を与えるより人数制限を取り入れて卒業単位にして欲しい
- 8 12 月 24 日に授業を入れるのは許し難い
- 9 「教育課程論」「教育情報学」は 1 年から受講できてよいと思います
- 10 小学校などの通信教育系の実習を苦小牧で行えるように英語科教員でカリキュラム作成に関する部会を開いて計画を立てること
- 11 英語科教員の打ち合わせが一昨年、昨年と出来ていない中で各々のやりたいようにやっている

5) 施設・設備に関する意見

- 1 暖房は冬期間、確実に入れて欲しい。お金を払っている意味がない/冬期間の教場の温度を一定にして欲しい/教室が寒い/教室が寒いから暖かくしてほしいです <8>
- 2 座席を広くしてほしい
- 3 どの先生も 2 階の映写機を安易に使えるようにしてほしい
- 4 今のトイレトーパーがホルダーにつっかかってもものすごく使いにくいです。前

のやつに戻してください。

- 5 授業より設備
- 6 たまに人数に対して教室が小さいと感じることがあった

6) その他

- 1 アンケートを取るので改善されている
- 2 アンケートについて設問1は、みんなだいたい同じことを書くので選択にできないですか？
- 3 自分から主張できない学生にもっと目を向けて欲しい
- 4 人が少ない
- 5 意味不明に怒る先生がいる
- 6 つまらない
- 7 もう少し学生の活動が欲しい
- 8 学生サポートセンターの拡充
- 9 学生がこないというのではなくて学生が来るためにどうすればよいか具体策がみえてこない
- 10 「***」の担当教員交代<3>
- 11 A先生の「***」は声が全く聞こえません/A先生はマイクを使ってください<2>
- 12 「***」の座学がつまらない

おわりに

平成20年12月の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」では、大学が自ら質の保証に主体的に取り組むことが提言されている。その方策として、成績評価の厳密化、単位制度の実質化、質の高い授業とそれを保証するための全学的・組織的FD活動が求められており、それは高度な研究に特化したリサーチ大学においても、本学のような地方にある小規模の教養大学においても同様である。一つの学校を学校として機能させるためには、学校運営上は規模の大小の別なく同様の役割が遂行し得る組織を持たねばならない。大学の場合は高度な研究活動、教育活動、そして社会貢献活動が求められるため、本来ならばその個々の細分化した要求に効率的に対応するため、分野に精通した school administrator が必須である (e.g., 科学研究費「専門」の担当者等)。本学の場合は専任教員27名と専任職員19名で構成されているため、大学に求められる学術的、教育的、社会的役割を遂行するに圧倒的に少ない人数で対応せざるをえない不利がある。しかるに、こと教育活動のみを勘案するならば、小規模であるがゆえの有利もみえる。授業における個々の教員の頑張りが学生による学校評価に結びつきやすいこと、そしてそれを支援する環境づくりが、教職員相互の密なコミュニケーションと連携によって構築しやすいことであろうか。

さて、本アンケートの結果分析に関して簡単にまとめてみよう。前回課題としてあげられた項目(予習復習に関してと他の受講生のマナーに関しての項目)で上昇がみられたの

は評価できる。ことにこの二つの項目に関しては、委員会では前回の分析を受けて危機感を持ち、1単位あたりに必要とされる学生の学習時間や教室管理に関わる工夫の必要性を述べて来た。多少なりとも、その効果が結果として現れたものと考えたい。

しかしながら、大学教育の肝といえる専門科目における予習復習の低調性や、コース別評価に関しては、結果を真摯に受け止め改善に向かわなければならない。これに関しては、来年度の新教育課程（7コース制）の導入に期待がかかるが、問題の原因が把握されないまま現状が維持されることにならぬよう危機意識を持つべきであろう。

記述回答の中には学生の我が儘とも思える回答もあるが、担当教員の身としては耳が痛いのが核心を突くものも多い。授業内容に関わる要望や、教育技術に対する要求が具体化していることについては、むしろこれらは本学の教育上の成果であるとも解することができる。また、出欠管理や遅刻・中抜けの取り扱い、私語の問題は授業アンケートを行うたびに俎上にのぼるところとなっている。授業者には教室における全ての学生の学ぶ権利を守る義務があるので、迷惑行為がある場合は積極的に介入すべきで放置することは許されない。「学生にとっての学習」があることが教育の意味であり、それが効率的・効果的に行われる場が授業である。至極当たり前のことではあるがこの文脈において、我々は彼/女等の学ぶ権利を保障していかなばならない。

授業アンケートも第6回目をむかえ、実施内容、実施方法について検討していく時期に入った様に思う。実施内容に関しては、例えば現在のような選択式の質問票でよいのか、記述式が主体となるアンケートの方がより実態を反映できるのではないかという議論が、委員会内でも行われている。また、実施方法については、現在の回収方法で公正さが保てるのか、受講生の少ない科目での取り扱いをどうするのか等、課題としてあげられよう。

この2月には本学においてもFD委員会規程が規定され、学長（委員長）、学部長（副委員長）の下、今日まで教務委員会が担って来た役割がより効率的に運用できる環境が整った。診断書としての授業アンケートの重要性に関しては冒頭でも触れたが、今後このアンケートをどのように活かすことができるのか。その具体的な処方箋は、授業アンケートの実践を引き継いでいくFD委員会による全学的活動にゆだねられていくことになるろう。

2009年度 秋semester授業アンケート

この調査は、授業をより良くするために、受講した授業についての意見を聞くものです。回答内容は成績評価とは全く関係がありませんので正直に教えてください。

授業名	担当教員	先生	曜日	時限
-----	------	----	----	----

この授業について、あてはまる数字に 印をつけてください。

* 5 : 強く思う 4 : そう思う 3 : どちらともいえない 2 : そう思わない
1 : 強く思わない NA : 該当しない・答えられない

担当教員の授業方法について

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 成績評価の基準が明確に示されていた。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 2. 授業案内にそって行われた。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 3. 準備は充分になされていた。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 4. 話し方は明瞭で聞き取りやすかった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 5. 教材や機器・黒板の使用は適切だった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 6. 速度や進め方は適切だった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 7. 担当教員の熱意が感じられた。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |

教室や設備について

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 8. 教室の大きさや設備は適切だった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 9. 受講生の数は適切だった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |

あなたについて

- | | |
|---|------------------------|
| 10. よく出席した。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 11. 受講マナー（遅刻・途中退席・私語・居眠り
携帯電話など）はよかった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 12. 予習や復習などの努力をした。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 13. この分野への興味が高まった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
| 14. 自分にとってプラスになった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |

受講生全体について

- | | |
|---|------------------------|
| 15. 他の受講生の受講マナー（遅刻・途中退席・私語
居眠り・携帯電話など）はよかった。 | 5 - 4 - 3 - 2 - 1 - NA |
|---|------------------------|

総合評価

この授業に対するあなたの総合評価を5を最高点として1までの数字で5段階評価で記してください。

ウラにつづく

設問1 この授業を履修した動機を書いてください。

設問2 この授業でよかった点を書いてください。

設問3 この授業でよくなかった点を、こうすればよいと思う点を書いてください。

設問4 他の授業を含みすべての授業について、意見や要望があれば書いてください。

ご協力ありがとうございました。



宮小牧駒澤大学

教務課

TEL 0144-61-3120 (直通)

E-mail kyomu@t-komazawa.ac.jp